

沖縄協会だより

2024.1

No.30



安部秀夫 作

鎮魂の花 号数：F100

安部英夫 大正13年 大分県生

画歴

京都市立絵画専門学校卒。フランス美術賞パリ展入選、銀座美術館で個展、第4回現代洋画精鋭選抜展銀賞、同展第6回展銅賞。

制作意図

青い、エメラルド色に輝く水平線が果てしなく広がっている南の国。そこには人をふと誘いこまずにはおかない魅力がある。南から吹いてくる暖かい風は、人の心を開放するのだろうか。私たちの海への郷愁はやすらぎに似たものがある。私たちはもともと海を揺籃にして育ち、海に還る民族なのかもしれない。

額サイズ：

縦×横×厚【149×183×8cm】（昭和52年2月12日寄贈）



沖縄平和祈念堂美術館
所蔵絵画紹介

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

第45回

沖縄研究奨励賞受賞者決定

沖縄協会では、沖縄の地域振興、学術振興に貢献する人材を発掘し、育成するため、昭和54年(1979年)から沖縄研究奨励賞を設け、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学・人文科学・社会科学)を行っている50才以下の新進研究者又はグループに対し、その年ごとに3件以内に贈呈している。本年度で第45回を重ね、全国7府県から14件の推薦応募が寄せられ、選考委員会(牧野浩隆委員長)において厳正・慎重な選考を重ねた結果、受賞者を2件に決定した。

自然科学部門



アリモドキゾウムシ根絶研究グループ

代表 日室 千尋(ひむろ・ちひろ) グループ員 池川 雄亮(いけがわ・ゆうすけ)

〈研究題目〉

「不妊虫放飼法を用いたアリモドキゾウムシ根絶に関する研究」

日室 千尋

〈所属〉琉球産経株式会社研究員(沖縄県病害虫防除技術センター配置)

〈年齢〉44歳

池川 雄亮

〈所属〉琉球産経株式会社研究員(沖縄県病害虫防除技術センター配置)

〈年齢〉36歳



陳 碧霞(ちえん・びしゃ)

〈研究題目〉

「琉球列島における伝統集落景観とフクギ屋敷林老木分布に関する調査研究」

〈所属〉

琉球大学農学部・准教授

〈年齢〉

48歳

※年齢は2023年7月15日応募時

受賞理由

不妊虫放飼法を用いたアリモドキゾウムシ根絶に関する研究
アリモドキゾウムシ根絶研究グループ 日室千尋(代表)

米国のエドワードニップリングによって発案された不妊虫放飼による根絶法は、農業の多大な環境負荷の根本的対策として世界中で注目されたが、この方法は、予算はもとより、システムのノウハウや改善点が積み上げられ社会化する必要がある、実用化に多くの難問を抱えている。

この壁を突破し、実用化を証明したのが1993年に完成した沖縄県のミバ工根絶事業であり、世界的にも類例のない歴史的壮挙である。そのお陰で、マンゴーは大きな産業となり、園芸分野の振興が着々と進んでいる。

ヤンバルクイナを守るために気の遠くなるような「マングースの罠の設置」による成果は、この成功例と無縁ではない。

ミバ工類の歴史的成果を踏まえ、本研究のカンショ(サツマイモ)のアリモドキゾウムシの根絶事業は必然的なものと言えるが、その成功はミバ工根絶に続く歴史的な壮挙であり、難防除害虫対策の確たる幕開けである。

歴史的に見ると、カンショ(サツマイモ)は、沖縄はもとより、全国の食

糧危機に極めて重要な役割を果たしたが、健康食品やバイオ資源としての可能性は無限的であり、これから主役になる作物である。アリモドキゾウムシに被害されたサツマイモは、イボメアマロンという有害物質が生成されるため、殆ど無価値となる致命傷がある。

本研究は既に久米島において成功を修め、国際的にも高い評価を受けているが、再侵入対策や広域にわたる応用に課題が残されていた。今回の研究は、再侵入が容易な津堅島(うるま市)で行われ、実用化に耐える成果を実証しており、広域な地域での応用の可能性も見出し出している。

従って、この独創的な研究は「沖縄発世界へ」となると同時に、カンショを中心にした新しい一次産業の振興に多大に貢献するものである。これまでの長期にわたる根気強い研究に改めて敬意を表したい。

【比嘉 照夫 選考委員】

琉球列島における伝統集落景観とフクギ屋敷林老木分布に関する研究

受賞理由

陳 碧霞

沖縄の伝統的屋敷は、多くの場合、周囲をフクギ林によって囲まれている。この沖縄独特の屋敷景観がどのような理由から生

まれたものなのか、なぜ屋敷林にフクギが使われるのか、海辺から内陸に渡って植栽される防風林と屋敷林との関係はどうなっているのか。これらについて、本研究では、沖縄の風水思想、自然環境、植生学の総合的観点から考察を行っている。

まず、土地保護の風水思想に基づいた重層的防風林が、島嶼沖縄の自然環境と相まって災害をもたらす台風や季節風に対応していることを科学的に論じている。すなわち、風水思想に基づく沖縄の抱護は、台風や季節風などの風の脅威から屋敷や集落、耕地を護ることに重点を置いており、風水の「風」に特化していると言える。このことから、中国の風水を「大陸型風水モデル」と位置づけ、沖縄独特の風水を「島嶼型風水モデル」として分類している。

次に、諸外国のフクギ植栽に関する豊富な調査研究から、偶然に流れ着いたフクギの種子が西表島のフクギ屋敷林の始まりであり、これが沖縄全土に広がったという有用な仮説を立てている。これに基づき、琉球列島のほぼ全域に見られるフクギ屋敷林が沖縄固有の文化的・景観的遺産であることを示唆している。

また、本部町備瀬集落での事例研究において、伝統的フクギ屋敷林に対する観光客の関心、評価に加えて保全意識も調査し、フクギ屋敷林が沖縄の重要な観光資源であることを改めて確認している。

さらに、琉球列島に現存するフクギ3万本余の樹高と幹の太さを測定し、集落ごとの老木データベースを作成している。これによって、沖縄のフクギの空間分布

を可視化し、今後のフクギ屋敷の包括的保全に向けて役立てることができるようにした。

本研究は、琉球列島との比較で中国、台湾、香港、韓国まで調査範囲を広げており、東アジアにおける沖縄の位置づけ、集落研究に大きく寄与することが期待される。また、単に専門的な植生学上の価値だけでなく沖縄の観光、地域振興にも貢献するものであり、沖縄研究奨励賞に値する。

【宮城隼夫 選考委員】

沖縄平和祈念堂における 平和学習

沖縄平和祈念堂には県内外の小・

中・高等学校の児童・生徒が平和学習に訪れており、昨年11月12日に平和集会を行った愛知県にある東邦高等学校の生徒代表による平和宣言を紹介する。

平和宣言文

時計は一刻一刻と人々の希望を乗せて時を刻みます。私は今、かつて約十二万二千の尊い「時」が瞬にして失われた、この沖縄の地に立っています。今、東邦高校の素敵な仲間たちと、かけがえのない「時」を共有できていることは、信じがたいことであると思います。

沖縄は、日本で唯一地上戦が行われた場所です。自分の命が危ないと分かっているが、お国のために兵

隊として活躍した人々、自分の子供の死を分かっているが、万歳と言って息子を戦地に送り出す家族の思いを想像すると、胸が強く締め付けられます。防空壕に逃げる毎日の中で、目の前で愛する家族や友人などを失う辛さは計り知れません。

今世界に目を向けると、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ戦争などの、大規模な戦争から国内紛争までかつての沖縄のような悲しく悲惨な状況が現在も繰り返されているのです。人はどうして武力で問題を解決しようとするのでしょうか。人間には「ミニニケーション」を取るという素晴らしい能力が備わっているのに、関わらず、今もなお命をかけた戦いが行われていることが悔しくてなりません。

命は、この世界の生物が唯平等に与えられた贈り物です。自分の命と共に他者の命も守らなければいけません。

現在の平和な沖縄の地で、戦争という悲惨な出来事が起こったという事実を感じるのは困難なことですが、しかし、十二万人以上の方が犠牲になられたという事実は決して忘れてはなりません。

現在沖縄戦の経験者は県総合人口の割を下回っているという現状があります。戦争体験者の高齢化が進む中、次世代を担う私たちが戦争の記憶を繋いでいくことが重要だと感じます。平和のために自分たちができることを構想するだけでなく、実行することが平和

への第歩だと私は考えます。「平和は当たり前ものではない、人々の努力の上に成り立つものだ」ということを胸に刻み、真の平和を追求していくことをここに誓います。

2023年11月12日

東邦高等学校 修学旅行第三団
生徒代表 吉川知花



沖縄平和祈念堂トピックス

★46回「摩文仁・火と鐘のまつり」の中止について

当協会では、これまで大晦日の夜から元旦にかけて、沖縄戦を体験したお年寄りから、戦争を知らない若者や子ども達が相集い、戦没者の御霊を慰め、大聖火を焚き、平和の鐘を打ち鳴らして、恒久平和を祈る「摩文仁・火と鐘のまつり」を開催しておりますが、現在行われている平和祈念堂建物の全面防水塗装工事のため、建物を覆う足場や養生シートと火を扱うまつり会場の西側広場が隣接していることから、引火など火災による事故を鑑み、参加者の安全第2を考慮してまつりを中止した。なお、大晦日にはまつりに替えて小規模の式典を職員のみで実施した。

★清ら蝶園

当協会では、戦後60年事業として平成17年(2005年)11月6日に「清ら蝶園」を建設した。蝶のことをギリシャ語で「プシュケ」(魂の意)ということから、この蝶園で平和の「魂」としてオオゴマダラ蝶を育て、戦没者を追悼し世界平和の実現を祈る平和祈念像の使者として、これまで慰霊の日に摩文仁の空へ放蝶を実施している。オオゴマダラは、1年をとおして天候の変化により生育が大きく影響を受け、その時折で数に増減がよくみられる。現在は約50匹が園内を飛び回っている。



★沖縄平和祈念堂建物全面
防水塗装工事

当協会では、経年経過による平和祈念堂建物の全面防水塗装工事を昨年7月から開始し、本年1月末に完了を予定している。工事開始からこれまでの進捗状況を写真で紹介する。



③正面養生シート取付工事のようす



②西側より足場組立工事のようす



①正面足場組立工事のようす



⑦上部防水塗装工事完了



⑥足場解体工事のようす



⑤正面東側より足場撤去工事のようす



④西側より養生シート取付工事のようす

協会関係事業他
募集案内など

★第32回金城芳子基金募集案内

【金城芳子基金】は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん（1902-1991）の強い意志により、そのご遺族によつて1992年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人及び団体・グループに助成している。

第31回までに31の個人・団体に助成を実施した。第32回の応募締切は2024年3月31日。当口消印有効。

★沖縄平和祈念堂改修工事に
伴つて寄付のお願い

開堂から45年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆづり銀行専用の振込票を送付させていただきます。

公益財団法人 沖縄協会
【電話番号】03-6231-1433
【FAX】03-6231-1436

※詳細は、「公益財団法人沖縄協会のホームページ」にて



沖縄平和祈念堂美術館

沖縄を描く：沖縄をモチーフにした作品 5

沖縄怨念 日高浩耀 作

日高浩耀 大正14年 台湾生

画歴

立命館大学卒業後、現武蔵野美術大学に学ぶ。中学時代より塩月桃雨に師事。デザイナーを経て洋画に戻る。日本表現派同人・同展奨励賞受賞。作品「原爆忌」が広島平和祈念館に、「惨火」が大阪府平和祈念戦争資料室に永久保存。

制作意図

私は、平和達成への悲願と併せて国家の防人として散華した数多くの将兵、沖縄県民への鎮魂の祈りを込めてこの絵画を制作。声なき死声を絵に表現し、平和実現への叫びとしたかった。

額サイズ：F100

縦×横×厚【183×151×7cm】

